

毎日新聞（令和七年九月十七日）くらしナビに「がん検診、不利益に目を」というがん検診のプロである国立がん研究所検診研究部特任部長中山富雄さんが、意外にもがん検診の不利益について、発信しておられました。がん検診には「対策型健診」と「任意型健診」の2種類があり、対策方は胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がんの5種類のがんが対象で、国が推奨しています。

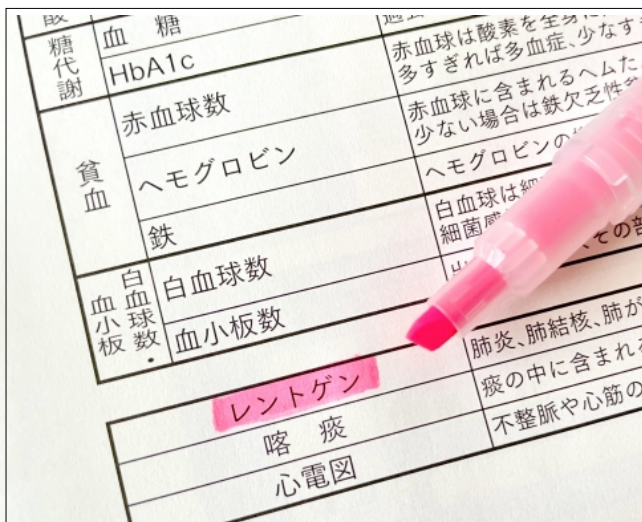
Vol.207

院長 関の

Face to Face

2025年9月1日発行

知らぬが仏。がん検診は必要か？



科学的根拠が確率されていて、死亡リスクを減少させる効果が証明されていると言われていますが、これらはがんの再発や転移に対してのもので、そもそも何の症状もない人にとっての根拠は認められていません。知人が、何の症状もないのに、癌の疑いで再検査を要請されました。そこで、セカンドオピニオンを選択。癌ではないと診断され、それを信じてリスクの高い再検査はしませんでした。あれから

15年、現在もお元気です。例えば一般的な大腸内視鏡検査では、大腸スコープによる感染症や、出血、高齢者は腸に穴が開くリスクもあります。画像診断の被曝、「がんかもしれない」という精神的なストレス、放置しても問題にならない進行の遅い癌を見つけてしまう過剰診断、費用的な負担、時間的な負担、挙げたらきりがありません。これらのストレスで逆に癌になりそうです。還暦も過ぎれば何かしら問題はあっても当然です。ご自身にとって、本当にがん検診は必要なのか、この機会にリスクについては是非調べてみてください。◇

関 修一（せきしゅういち）
健育会 東銀座整骨院・整体院・
鍼灸院・マッサージ院 院長
代替医療の総合治療院としての
確立を目指す。タイトルの「face
to face」は「患者さん自身と向き
合って患者さんの症状と闘う」こ
とを願ってつけた

※毎月一日の発行です